

中間報告 総務常任委員会：市民が望む庁舎建て替えについて

これまでの取り組み

はじめに市民の意見をどう取り入れていくかが重要であるため、進め方などの協議を行い、市側との意見交換の中で協議していくことを確認しました。勉強会を開催し、その後は有識者懇談会や市民フォーラムの傍聴、市から報告を受ける中で専門家の考え方、市民の声などを聞き取ってきました。

また、他自治体の視察も行い、進め方や課題はどのようなものであったか、市民の意見等をどのように反映していったかなどを調査してきました。

令和4年11月8日には、本委員会だけではなく全議員を対象に市側からこままでの成果である基本構想の素案について説明がありました。

最終報告に向けた取り組み

市は現行の素案に対しパブリックコメント等の市民意見を反映するなどして検討を進めていくとのことです。

よって、最終報告の内容についても、今後の検討の進捗状況を見ながら、基本構想素案をもとに、基本計画や設計を進める際に留意すべき点や事業の進め方等に関する意見の概要を作成します。

令和5年2月7日の全員協議会を経て、基本構想の決定後、3月の定例会本会議に最終報告書として整理し、市に送付します。



◀現在の市役所本庁舎

中間報告 子ども教育常任委員会：GIGAスクール構想について

特別支援学級でのタブレット端末の使用状況・文部科学省へ視察

生徒一人に1台ずつタブレット端末を配布し、学校の通信環境を整備する「GIGAスクール構想」。タブレット導入時は生徒が使いこなせるのか、また教員への負担はどうかなど様々なメリット・デメリットが予測されていました。その状況を調査すべく令和3年は市内の授業を視察、また教育長や講師を招き勉強会を行いました。

令和4年に入り、平成26年度から全校に、タブレット端末一人1台体制を導入している、荒川区の小学校を視察。また市内小中学校の特別支援学級の視察を行い、児童・生徒の実際のタブレット端末の使用状況を調査しました。

さらに、文部科学省を視察し、国内のGIGAスクール構想による各学校の情報端末の導入状況や、国内よりも先行して機器導入、活用を行った例が見られる在外日本人学校での取り組みや、課題を学びました。

2年間のまとめとして

今後、この2年間に行ってきた勉強会や視察など、調査してきた事項に対し、各委員が意見等を出し合いながら、3月議会での最終報告にむけて報告書をまとめ、さらには行政への意見・要望としていきます。



◀文部科学省視察

健康福祉常任委員会 行政視察報告



多摩市障がい者への差別をなくし共に安心して暮らすことのできるまちづくり条例(多摩市障がい者差別解消条例)について

立川市の障害福祉施策を行政視察

多摩市では令和2年7月に「多摩市障がい者への差別をなくし共に安心して暮らすことのできるまちづくり条例」が施行されました。健康福祉常任委員会では、この条例制定によって市民生活にどのような影響があったかを調査し今後の施策展開に生かすことをテーマとして継続的に活動しており、10月12日には、「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を制定している立川市役所へ行政視察を行いました。



◀立川市視察

障害とは、個人ではなく地域社会の問題

立川市は、障害は個人ではなく地域社会全体の問題であるという考えのもと、この条例を障害の有無にかかわらず誰にとっても有益なものとして位置づけ、様々な啓発事業を行っています。それぞれの事業に障がいのある人ない人両方の立場からの視点が生かされており、今後の多摩市の障害福祉施策を議論するうえで大いに参考とすべき視察になりました。